

携帯メールを活用する若者におけるコミュニケーション分析
— 日本・韓国の比較分析を中心に —

金 エリ*+
神原 理**

青島美幸*
三友仁志*

要旨

本研究は日本と韓国の大学生を対象に若者の携帯メールを利用したコミュニケーション行動・意識比較・分析することを目的とする。そのために、日本では和洋女子大学と専修大学、韓国では延世大学、梨花女子大学、中央大学、漢陽大学でアンケート調査を実施し、若者の携帯電話・携帯メールの利用法ならびに携帯メールと仲間意識との関係を調査した。そこに何らかの関係性が認められれば、携帯メールが若者のコミュニケーションに与える影響を把握することができると考えられる。

Communication among Young People Making the Most of Mobile Phone Mails

— A Comparative Analysis between Japan and Korea —

Ae Ree Kim*+ Miyuki Aoshima*
Satoshi Kanbara** Hitoshi Mitomo*

Abstract

The purpose of this study is to analyze the impact of short message services(SMS) using mobile phones of the university students. Questionnaire surveys were conducted in Japan and Korea. The difference and similarity of communication patterns are investigated between both countries. Covariance Structural Analysis is applied to show the structure of an implicit communication style of young people. The result suggests that SMS has no significant impact of increasing intimacies in both countries, but it contributes to increase the number of friends in Korea

*早稲田大学大学院国際情報通信研究科、Graduate School of Global Information and Communication Studies、Waseda University

**専修大学商学部、School of Commerce、Senshu University

+発表者。発表者は本研究を実施するのにあたり多くの方々の協力を得た。感謝の意を表したい。

1. はじめに

1990年代後半に移動電話(携帯電話・PHS)による携帯メールサービスが開始されて以来、日韓両国において携帯メール利用者が急増してきた。日本の電子通信事業協会(TCA)によると、2003年における携帯電話・PHSの契約数は7351万4000件となり、人口に対する普及率は約60%にまで達した。一方、韓国では2002年末移動通信加入者が3千200万を超え、対人口普及率は約65%を上回っている。特に、両国において20代を中心とする若い世代では携帯電話・PHSは標準的な装備と言えるほど浸透するまでになっており、移動電話での会話や携帯メールのやりとりは日常的な行為となってきている。

このような社会的変化を反映して、日本においても、韓国においても、移動通信を用いたコミュニケーションに関する研究の蓄積が進みつつある。例えば、内閣府(2000)による「青少年と携帯電話などに関する調査研究」では、移動通信の利用は友達関係の仲を深めるとともに広げる効果があり、家族と連絡がとりやすくなる効果もあることが明らかにされている。一方、韓国の言論学会(2002)による「若者の携帯電話使用とその影響に関する研究」では、携帯電話を活用することで若者の間で活発なコミュニケーションが行われ、結果として互いにひとときわ親しみを感じるようになることが指摘されている。

近年、携帯電話の利用は若者を中心に増えつつあり、特に携帯メール利用が急激に増加する傾向が見られる。そこで、本研究では若者のコミュニケーションと携帯メールの関係性を明らかにするため、「携帯メールを活用する若者は仲間意識を強く持っている」、「若者は友達の数を増やすため携帯メールを利用する」という仮説に基づき、共分散構造分析を用いて、これを統計的に検証、国際比較をする。

2. 調査方法

調査の概要

	韓国	日本
地域	ソウル(大都市)	東京・千葉県(大都市)
対象	大学生(延世大学、中央大学 漢陽大学、梨花女子大学)	大学生(専修大学、和洋女子大学)
方法	授業出席者に対する自記式質問票	授業出席者に対する自記式質問票
有効回数	593人(男-300 女-293)	406人(男-206 女-200)
期間	2002年10月28日~11月20日	2001年11月、2002年4月

主な調査項目

個人生活関連、コミュニケーション行動、友達関係、携帯電話や携帯メールの利用状況
情報行動、情報機器の利用状況

3. アンケート調査の結果

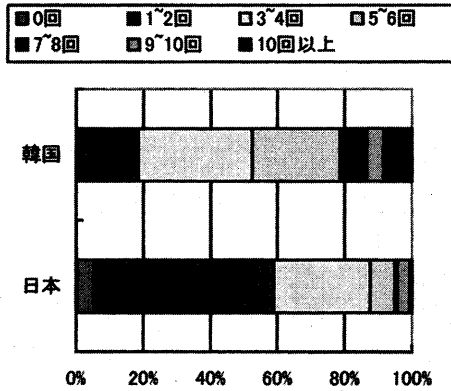


図 1-電話回数/日

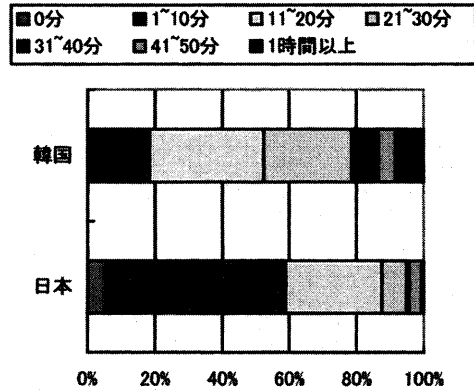


図 2- 通話時間/日

携帯電話の利用に関し『一日に何回くらい電話をしますか』との質問に対する結果を図 1 に示す。図 1 により、日本では「1~2回」が最も多く、これに「3~4回」、「5~6回」が続く。一方、韓国では「3~4回」と「5~6回」を合計すると過半数を超える。電話の回数については韓国が日本より多いと考えられる。

次に、『一日の通話時間はどのくらいですか』との質問をした、その結果を図 2 に示す。日本では「1~10分」が最も多く、韓国では「11~20分」が最も多い。全体的に、日本より韓国の学生の方が通話時間が長い傾向にある。

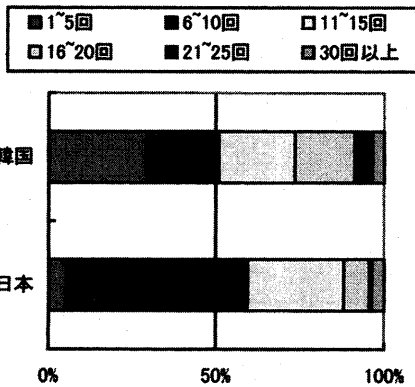


図 3-携帯メール送受信数/日

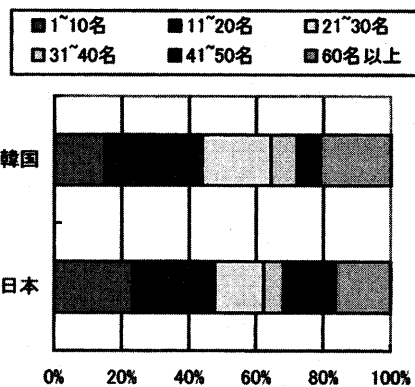


図 4-友達の数

携帯メールの利用に関しては『一日に何通くらい携帯・PHSメールを送受信しますか』との質問に対する結果を図 3 に示す。韓国と日本は異なり、日本では「6~10回」が半数を超

えるが韓国では「6~10回」は20%をわずかに上回る程度であった。また、メール送受信に関しては有意な差が認められる。次に、友達関係を調べるため、『友達の数は』という質問をした。その結果を図4に示す。友達の数では多少の差は見られるものの、友達の数では日韓間に多くな差はみいだされなかった。

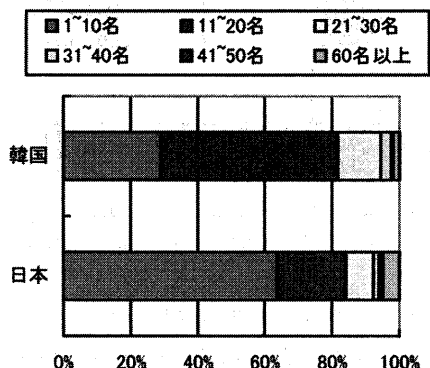


図5 メールトモの数

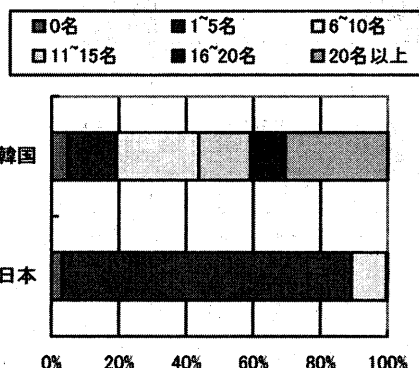


図6 メールをしない友達

『友達のうちメール交換しかなかった友達の数は』を尋ねる質問の結果を図5に示す。日本では「1~10名」が最も多く、過半数を占めた。一方、韓国では「11~20名」が最も多く、韓国の方がメルトモの数が多い傾向であることがわかる。『友達のうちメールも電話もしない友達の数は』を尋ねる質問に対する結果は図6に示す。日・韓で有意な差が認められ、日本の学生の方が携帯電話で連絡をとる傾向が高いという結論に至った。

4. 共分散構造による分析

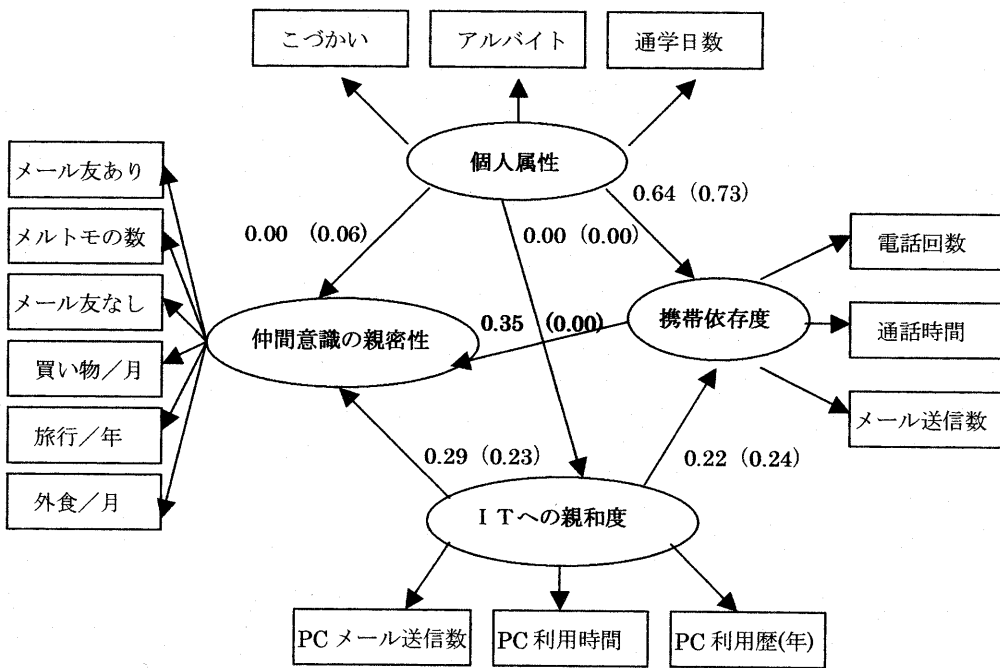
次に、本研究では携帯メールの利用と対人関係形成の構造を統計的に分析した。社会科学の分野における現象の因果関係を統計的に明らかにすることに効果的な共分散構造分析を用いて分析する。共分散構造分析では観測変数と潜在変数の両方を扱うことで、潜在変数間の、広く観測変数や因子の間の因果関係を分析することができる。

潜在変数	観測変数
個人属性	こづかい、アルバイト、学校登校日数
携帯依存度	電話回数、通話時間、携帯メール送信数
仲間意識新密性	携帯メール友あり、携帯メール友なし、メルトモあり、買い物/月、旅行/月、外食/月
ITへの依存度	PCメール送信数、PC利用時間、PC利用歴

表1- 各潜在変数と観測変数の構成

分析にあたり、アンケートから得られたデータを観測変数として分析し、「個人属性」、「携帯依存度」、「仲間意識の親密性」、「ITへの依存度」という4つの潜在変数をあらかじめ想定し、各要因の因果関係を分析する。モデルの構築において携帯メールの利用が仲間意識の親密性に影響を及ぼすとする仮定をもとにモデルを構築した。潜在変数間のパスはその間の因果関係を表すことで、「携帯依存度」から「仲間意識の親密性」へのパスを引いた。モデルの構造は図7に示す。

まず、モデルに関して日本と韓国それぞれのデータがモデルに適合するかをどうか確認した。適合を調べる各数値を計算した結果、当てはまりは良かったため、図7のモデルを採用することにした。各仮説モデルの適合度は表2に示す。次に、そのモデルを用いて日本・韓国の意識比較を行うため、『多母集団分析』を行った。『多母集団分析』では、検定統計量の絶対値が1.96以下、つまり有意ではないパス係数を0に固定することで、関係を整理することができる。それぞれモデルを修正した結果、適合度が高いモデルを採用することにした。比較モデルは、日本では2つのパス係数、韓国では1つのパス係数をそれぞれ0に固定したモデルであり、その適合度を表2に示す。



左－韓国 右－（日本）

図7－共分散構造分析による携帯依存度から仲間意識の親密性への因果モデル

	カイ 2 乗	自由度	確率	GFI	AGFI	AIC	RMESEA
日本	143.697	84	0.000	0.955	0.936	215.697	0.042
韓国	281.429	84	0.000	0.939	0.913	353.429	0.063
比較モデル	426.691	175	0.000	0.945	0.925	556.691	0.038

表 2— 共分散構造分析による主な適合度指標

5. 分析結果

各変数がどれだけ各要因に影響するのかということに関しては「標準化係数」で判断できる。分析の結果は表 2 および図 7 に示す。

このモデルで「携帯依存度」と「仲間意識への親密性」のパス係数は日本では 0.00 となっており、ほとんど相関関係が見られない。一方、韓国ではそのパス係数は 0.35 になっており弱い正の相関関係が認められる。分析結果から見ると日本の学生は友達関係の仲を親密にするための道具として携帯メールを活用するというわけではないことが明らかになっている。また、韓国の学生においても日本の学生よりは正の相関関係が認められるが、その相関が弱い関係であり、携帯メールの使用が仲間意識の親密性につながるとは言い難い。

分析結果により日・韓の傾向がほぼ同一で、携帯メールを活用する若者は友達関係を深めるためや親しくするための道具として、携帯メールを活用するわけではないことが明らかになった。

次は「若者は友達の数を増やすため携帯メールを利用する」という仮説を検証した結果である。そこでは観測変数間の係数を見ることで仮説の検証ができる。日本では「メール友有り」と「メール友なし」のパス係数はそれぞれ 0.00、0.25 となっており、ほとんど相関関係が見られない。一方、韓国では「メール友あり」と「メール友なし」パス係数が 0.55、0.22 になっており、それぞれ中間の相関、弱い相関が認められた。携帯メール使用と友達の数との関係性を分析した結果、日本の若者は仲間数を増やすため、携帯メールを使用していないことが認められる。一方、韓国の若者においては仲間数を増やすため、携帯メールを使用している傾向であることが明らかになった。分析結果によると、日・韓で異なっている傾向が認められる。

パス	韓国	日本
IT への親和度←個人属性	0.00	0.00
仲間意識の親密性←IT への親和度	0.29	0.23
仲間意識の親密性←個人属性	0.06	0.00
携帯依存度←個人属性	0.73	0.64
仲間意識の親密性←携帯依存度	0.35	0.00
携帯依存度←IT への親和度	0.24	0.22

表 3-1 分析結果による潜在変数と相関行列 (標準化係数)

6. まとめ

本研究では、日・韓の若者の携帯メールの利用状況を分析し、若者における携帯メールと仲間意識の関係について考察した。日・韓の若者において携帯メールは仲間関係を媒体するメディアとして使われているが、それは両国の学生にとって、仲間の信頼を得るためや、友達関係を親密するためのものではないことが確認された。一方、友達の数と携帯メールの利用の関係性において、日本の若者は携帯メールを、仲間を増やすために利用することとは言い難いが、韓国の若者は仲間を増やすため、携帯メールを利用していると考えられる。

参考文献

- 三上・最永論ほか「携帯電話・PHS の利用実態 2000」『東京大学社会情報研究所紀要 15 号』東京大学社会情報研究所、2001
- 松田美佐ほか「移動通信の普及と変容」『東京大学社会情報研究所紀要 No. 56』、1998
- 青島美幸「携帯メールを活用する若者におけるコミュニケーション分析」早稲田大学国際情報通信研究科、2002
- 五十嵐誠・岡田 勇ほか「モバイルメッセンジャに関する分析モデルの構築」『日本社会情報学会 第 15 回全国大会研究発表論文集』、日本社会情報学会、2000
- 吉井博明「若者の携帯電話行動」『現代のエスプリ 405 携帯電話と社会生活』至文堂、2001
- 内閣府「青少年と携帯電話等に関する調査研究報告書」http://www8.cao.go.jp/youth/keitai_jtm
- 山本一郎・小野寺孝義「Amos による共分散構造分析と解析実例」ナカニシヤ、1999
- 田部井明美「SPSS 完全活用法—共分散構造分析によるアンケート処理」東京図書株式会社
- Lee Si Hung 「携帯電話使用とその影響に関する研究」韓国の言論学会、2002
- Lee Jong Suk 「我が国における携帯電話の普及および使用文化」韓国の言論学会、2002
- 電気通信事業者協会 <http://www.tca.or.jp/>
- CDMA 情報 <http://cdma01.etri.re.kr/>